

【高校野球応援】

小学校開校12年目の今年、高等学校野球部は3度目の夏の全国大会の出場という偉業を達成しました。春の大会も含めると4度目の全国大会出場となりました。これら全てが小学校開校後のことであり、この小学校に在学した全ての児童は横浜スタジアムや甲子園球場での応援の機会に恵まれたこととなります。県大会での全校応援は準決勝と決勝となっていますが、それらが毎年の恒例行事のようになっていることは子どもたちにとってとても幸せなことであると思っています。保護者の皆様にもご迷惑をおかけしますが、今後ともよろしくお願いします。

【緊急連絡・臨時休校について】

台風9号の接近に伴い緊急メールを使った連絡を何度かさせていただきました。一昔前は、電話で皆さんにリレー方式で連絡をしていただいていたのですが、なかなか電話が繋がらないということもあり、緊急連絡に欠かせない「短時間で・正確に」を確保することが困難なことがありました。メールでの連絡は、「短時間で・正確に」は何とか可能となりましたが、「確実に」という意味で問題を感じていますので、今後運用上での工夫が必要になることもあるでしょう。

さて、臨時休校の措置についてですが、「いもこじっ子」では、「朝6時の段階で登校に影響を与える警報が出されている場合は臨時休校にする」ということを皆さんにはお伝えしておりますが、実際には単に機械的にその措置を決定しているわけではありません。決定の1,2時間前からテレビやインターネットからの情報を確認しながら判断することになります。もちろん、中高との連絡も必要ですが、中高生に比べると身体も小さい小学生ですから、全て同じようにというわけにはいきません。同時に授業時間の確保も大切です。今後、まだ台風の発生も予想されます。警報は一定の判断基準にはなりますが、その状況に応じた連絡を差し上げることもあると考えますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

児童の携帯電話の使用については、保護者の皆さんの判断にお任せしているのが現状ですが、届出の用紙を見ていると、本当に必要なのか？と思うような理由が書かれているものもあります。これまで大きな問題は起きていませんが、安心グーパスなどのサービスの利用などで少しでも所持者数が減っていくことを期待しています。最近心配なのは、学校に携帯電話を持ってくるかどうかではなく、家庭においての児童の携帯電話の使用についてです。上級生の中には頻りに友だちとのメールのやりとりをしている児童がいるとの話も耳にします。保護者が把握できないところでのメールのやりとりになってしまうことが多いと思いますが、使用にあたっては一定のルール、マナーを確認する必要があります。家庭内でいつも携帯電話を手放せないというような状況はありませんか。もし気になるようなことがあったら子どもときちんと話し合う機会を持っていただきたいと思います。

【信頼関係】

夏休みのような長期の休みを境に、子どもたちに大きな変化が見られることがあります。長期の休みや節目となる時に必ず子どもたちに促すのが自分自身の振り返りです。これは子どもだけでなく教員にとっても大切なことです。そうすることによって、自分自身を肯定的に評価することができ、自然と課題が明らかになってきます。休み明けに子どもたちに見られる変化は、子どもと教員の両者にその振り返りの効果があったということなのかもしれません。

さて、これまでの子どもたちとの生活を振り返り、私は「子どもと教員の良好な信頼関係をどのように作っていくか」が課題であると考えています。たとえば、私が朝会などで、「皆さんのことを信頼しています。だからがんばってください。」と言ったとしましょう。確かに私の本音であり、伝えたい子どもたちへのメッセージなのですが、それを聞いた子どもたちはどう思うでしょう。これは、私からの具体性に欠ける一方的なメッセージであり、「信頼」の押し売りと言えるのかもしれませんが。その結果が分かるまではそれほど時間がかかりません。数日、いや早いときは数時間後にはそんなメッセージのことは誰も覚えていないことになるでしょう。

では、どのようにしたら子どもとの良好な信頼関係を作ることができるのでしょうか。その答えはまだ見つかりませんが、一つ私がこれから心がけたいことがあります。それは子どもへの声かけの方法です。以前の私は授業中にぼんやりしている子がいると、その子に対して「ちゃんと前を向いて！」「ぼんやりしないで！」というような声かけをしていたと思います。確かにそういう声かけをされた子はそのときは「前を向き」「先生の話を聞く」ことができます。でも、なかなか継続できません。結果的には、同じ時間に、または次の時間に再度同様の声かけをしなければならないこととなります。そんなときに、「何を見ていたのかな」「どんなことを考えていたのかな」とその子に声をかけたとしましょう。そのとき、子どもは、自分がどうしていたのか、どうあるべきかについて「考える」という行為を多少はするのではないのでしょうか。同時に、「先生は自分のことを分かっていてくれる」という気持ちになるかもしれませんし、教員がそこで見える子どもの姿だけでその子どものことを判断することは少なくなると思います。まずできることから始める。これからこんなことを心がけてみたいと考えています。

グループ討論会は小学校入試終了まで行いません。